



福岡県立福岡高等聴覚特別支援学校

全校が一丸となった授業改善

第9号は 福岡県立福岡高等聴覚特別支援学校 の取組を紹介します。同校は、県内唯一の高等部のみの聴覚特別支援学校です。

高等学校に準じた教育を行う高等部普通科（3か年）及び職業に関する専門教育を行う高等部専攻科（2か年）を設置し、生徒一人一人の特性や障がいの状態に応じ、きめ細やかな学習指導や進路指導を行っています。

1 教育目標

「聴覚に障がいのある生徒に対し、心身の発達に応じて高等学校に準ずる普通教育及び専門教育を行い、社会の一員としての自覚と責任をもち、心身の調和のとれた人間の育成を目指す。」

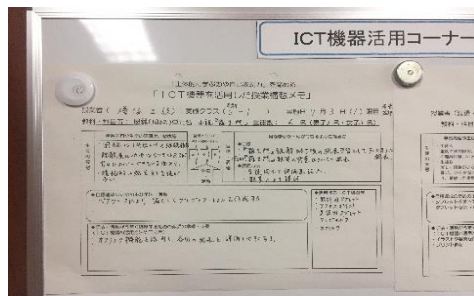
音声や手話、筆談等、様々な伝達手段を用いるとともに、プレゼンテーションソフトや拡大印刷等の視覚的補助教材を活用し、「分かる授業」の実践を目指しています。また、生徒たちに様々な資格取得を積極的に勧めるとともに、知識や技術、学習に対するモチベーションの向上に努めています。近年は、大学、短期大学、専門学校等に進学し、自分の可能性を伸ばす生徒が増えてきました。

2 ICT機器を活用した授業実践の研究

平成28年7月から、「聴覚障がいのある生徒の主体的に学ぶ力や自己表現力を育てるための指導の在り方～タブレット型情報端末等のICT機器を活用した授業実践を通して～」という主題の下、学校研究を進めています。生徒用タブレット型情報端末（以下タブレット）を学習に活用することにより、聴覚障がいによる情報入手の困難さを補い、生徒の主体的に学ぶ力、コミュニケーション能力の向上など社会的自立に向けた資質・能力の向上を目指しています。

(1) ICT活用推進委員会・教務部による学校研究の推進

中心となって研究を推進しているのが、ICT活用研究推進委員会と教務部です。ICT活用研究推進委員会が企画調整課の指導の下、ICT機器活用の環境整備・運用方法を担当し、教務部が学習環境の整備、授業研究の推進を担当して研究を牽引しています。

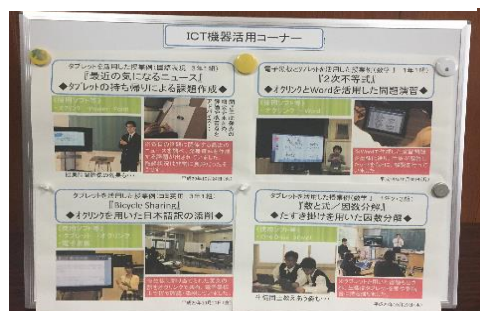


授業構想メモ

(2) ICTを活用した授業の公開

本年度は、県教育センター作成の、「『アクティブ・ラーニングの視点』からの授業構想メモ」（県教育センターのホームページからダウンロード可）をアレンジして、「『主体的に学ぶ力や自己表現力』を高める『ICT機器を活用した授業構想メモ』」を作成し、これを基に全教員がタブレットを使用した授業公開を行いました。

職員室に「ICT機器活用コーナー」を設けて、その日の公開授業の「授業構想メモ」を掲示し、さらに、授業後には写真入りの授業報告を掲示する等、個人の取組を全体で共有しやすい工夫をしました。その成果は11月のICT活用研究報告会で発表されました。



授業後の報告

3 各教科等での実践例

生徒たちの「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した、ICT機器活用の実践例の一部を紹介します。

(1) 保健体育「体育」：単元名「バスケットボール」

7、8名のグループでバスケットボールのレイアップシュートを練習する。練習中、教師は生徒の動きをタブレットで撮影する。数分間の練習後、グループ毎にタブレットの動画を確認し、経験者（バスケットボール部員）を中心に改善点を話し合う。その後、各自の改善点を踏まえて再度練習し、最後に代表者が成果を発表する。



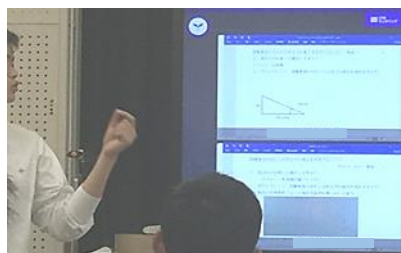
(2) 公民「政治・経済」：単元名「現代の国際政治」

国際連合の仕組みと機構についてタブレットで調べた後、2、3名のグループで話し合い、ダイヤモンドランキング（国連の八つの施策の中から優先順位が高いと思われる三つを選ぶ）を作成する。その後、ダイヤモンドランキングをモニターに表示しながら選んだ理由を発表し、質疑応答を行うことで考えを深める。



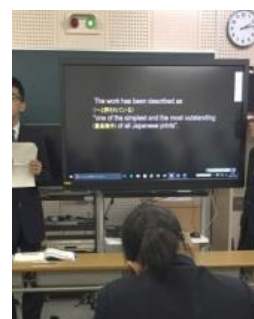
(3) 数学「数学Ⅰ」：単元名「図形と計量 第1節 三角比」

「視聴覚室の床から天井までの高さを求める」というめあての下、学習を進める。生徒が各自で考えた測定方法を、発表用のアプリケーションソフトを使って、電子黒板に視覚的情報として提示し、生徒同士で情報を共有しやすくする。その後、グループに分かれて実際に測定を行わせる。最後に測定結果を発表し合うことにより、結果の違いを考察させる。



(4) 外国語「コミュニケーション英語Ⅲ」：単元名「Views of the Eiffel Tower」

新出単語の復習、和訳については、発表用のアプリケーションソフトを使い、各自の解答を電子黒板で比較し、考えを深める。また、英文に登場する画家について調べたことを、生徒が電子黒板の画像等を指し示しながらペアで協力して発表する。



4 アクティブ・ラーニング導入の成果

まだ取組が始まったばかりですが、徐々に次のような成果が現れてきています。

生徒については、タブレットを使用した授業に積極的に取り組み、使用技術も高まってきています。また、生徒同士のコミュニケーションもより活発に行われるようになってきました。

さらに、取組を学校全体で共有しやすい工夫を行うことによって、職員室ではアクティブ・ラーニングについての意見交換やICT機器の指導技術について助言し合う先生方の姿が、以前にも増して見られるようになりました。また、お互いの授業を参観し合う回数が増えたりするなど、授業改善に向けての取組も日常的に進んできました。

5 今後の方向性

今後も本年度のICT機器を活用した実践研究が学習指導の手立てとして定着し、更に効果的なものとして改善・向上していくことを目指し、研究を進めていく予定です。聴覚に障がいがある生徒の、言葉を正確に理解することや伝え合うことの困難さを改善・克服し、生徒相互、また、生徒と教員の円滑なコミュニケーションを図り、「主体的・対話的で深い学び」につなげていくことができるよう取り組んでいきます。